

## 活動実施計画書

団体名： 藤が丘まちづくり協議会

### 1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-1：賑わいを創出する交通機能の強化／C-1：災害（感染症等を含む）につよいまちづくり／F-3：個性的な魅力空間の創出

### 2 活動地域の特性、現況、課題

#### ①地区特性

- 歴史と基本特性：藤が丘地区は昭和40年代に名東区東端の山林原野が土地区画整理事業によって整備された地区です。整備時に地下鉄東山線が延長され市バスのバスターミナルが整備されたため、名古屋市中心部への交通利便のよいベッドタウンとして発展しました。
- 変化：愛・地球博の開催を機に長久手町（現、長久手市）から豊田市に至る東部丘陵線（リニモ）が整備されてリニモ沿線地区の開発が進み、これらの地区の中心となる住商複合の総合的な地区に成長しました。
- 住民：愛・地球博開催に際しては「藤が丘まちづくり連絡協議会」を結成、地区づくりに住民が参加するなど、コミュニティ意識が高い住民が多いといえます。

#### ②現況

- 地区特性：居住を中心とする名古屋の東の玄関から、商業が複合した名古屋東部エリアの中核に成長しつつあります。同時に土地区画整理事業によって成立した地区であるため、道路、鉄道、住宅団地、その他の都市インフラが整備後50年を経て一斉に老朽化しており、今後、地区の利便性が低下する恐れが発生しています。
- 変化：令和4年11月に長久手市内の愛・地球博記念公園内にジブリパークが開園するため、地下鉄藤が丘駅、リニモ藤が丘駅の乗降数が増加、結節点としてのサービス向上、地域商業の活性化が期待されています。
- 住民：複数のマンション建設（分譲）が現在も進行しており、子育て層世帯の急速な増加が予測されています。地区の成熟に伴い、人口構成も現段階では高齢者層が増加、転入・転出が落ち着き、本協議会（藤が丘まちづくり協議会）が新たに結成されるなど、住民のコミュニティづくりへの意識も高まっています。ジブリパークの開園を契機に地区外との交流のあり方について議論が始まっています。

#### ③課題

- 藤が丘まちづくり協議会では地区課題を「短・中期」「中・長期」に分けて考えています。
- 都市型コミュニティづくり（短・中期課題）：住民間の血縁や歴史的な結びつきに乏しい地区ですが、地区の成熟につれ、地縁的な結びつきによる都市型コミュニティの構築、強化を住民が求めています。そのため持続的なエリアマネジメントづくりに向け、コミュニティ醸成の場として、地区内各施設のコミュニティ活用が課題になっています。
  - 市街地整備（中・長期課題）：老朽化する都市インフラの計画的な再整備が必要です。コロナ渦を教訓にする感染症も含めた災害に強く賑わいもある地区づくりの具体的な姿を地区住民として考え、示すことが課題になっています。
  - ジブリパーク対応（短・中期課題）：ジブリパークの開園によって外国も含む地区外来園者が藤が丘を通過します。これらの方々には地元商店街にとっては新規顧客として重要であ

るとともに、住民としても新たな交流を契機とした地区アイデンティティづくりと持続性のあるまちづくりを進めることが課題であると考えます。

### 3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

2020年：藤が丘まちづくり協議会設立・地域まちづくり活動団体登録

リノモ沿線地域づくり会議に委員として参加

第1回藤が丘大文化祭協賛

2021年：施設部会設置

名古屋市長、愛知県知事に要望提出

第2回藤が丘大文化祭協賛

建築系愛知16大学設計競技（藤が丘エリアがテーマ）の二次審査に参加

「広報藤が丘（自治会加盟者対象ミニコミ誌）」6月号～9月号に藤が丘の歴史、まちづくり方針について連載

2022年：施設部会検討として商店街の「ほこみち」化の検討を開始。専門技術者招聘

「広報藤が丘」1月号～4月号に藤が丘の歴史、まちづくり方針について連載

エリアマネジメント先進地視察（予定）

藤が丘地区住民意向調査（予定）

### 4 助成を受けようとする活動の目的

①藤が丘まちづくり協議会が持続的かつ効果的にエリアマネジメントを展開して藤が丘地区の地区再生に継続的に寄与するための組織形態、手法の模索

②老朽化した都市インフラの再整備による地区再生のまちづくりビジョン構築の前提となる地域住民の意向（にぎわい、防災、アフターコロナ、求められる都市施設等）の掌握

③藤が丘地区住民との関係強化

### 5 活動による今年度の成果目標

①先進地視察による当協議会の組織と活動の最適化の具体策を整理

②アンケートの実施・結果の分析（今年度は全体集計を対象とする）による藤が丘地区住民の地区に関する認識・意向を定量的に確認

③年度内に2回の協議会ニュースを発行、配布（アンケート配布に添付、商店街ホームページへの掲載、自治会回覧板による閲覧）

### 6 助成を受けようとする今年度の活動内容

①先進地視察：具体的な地区活動を持続的に展開する方法検討のため、横浜市において京浜急行電鉄高架下の活用を軸とする収益・コミュニティ活動とエリアマネジメント事業を進めている「黄金町エリアマネジメントセンター」の視察。

②住民意向調査：まちづくりビジョン策定の前提となる「藤が丘地区住民の藤が丘の現況と将来に関する住民意向」確認。この調査は当協議会結成時からの懸案事項でしたがコロナ渦により実施が延期されてきたものです。

③ニュースの発行：協議会独自にまちづくり情報提供・共有を図り、活動に対するフィードバックを得るための「ふじがおかまちづくりニュース（仮称）」の発行。

※ この様式は公開されます。

## 7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

藤が丘学区連絡協議会 藤が丘地区区政協力委員会 藤が丘小学校 愛知学院大学社会連携センター 地域商店街未来デザイン会議・地域最適化研究会（愛商連・名商連・名古屋市・愛知県・愛知学院大学で運営） 名古屋市住宅都市局 愛知県（ジブリパーク課） 愛知高速鉄道
---

## 8 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
2022年5月	総会・施設部会（施設部会は年6回開催予定）
8月 ～10月	視察（横浜市中区黄金町高架下エリア）：新型コロナ感染動向によって日程を調整する。状況によっては中止（来年度以降実施）、Web会議形式等を検討。予算申請外に実費負担にて追加参加を検討する。
8月 ～9月	アンケート項目・アンケート用紙作成
11月	協議会ニュース作成 アンケート配布（協議会ニュース添付）・回収 藤が丘大文化祭共催 ジブリパーク開園もてなし活動
12月	アンケート集計・分析
2023年1月	協議会ニュース作成
2月	アンケート結果報告（協議会ニュース：藤が丘中央商店街HP）

## 9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと今後の展望

<p>藤が丘まちづくり協議会では、令和6年までにまちづくりビジョンの策定を完了し、エリアマネジメント組織への移行も視野に入れつつ、具体的なまちづくり活動の実施を継続することを基本計画としています。まちづくりビジョンには地区再生のための都市インフラの更新等、都市計画および建築的な専門知見を必要とする内容も含むため、現在、専門家を含む施設部会を設置しており、専門的な検討を行っています。加えて今年度実施するアンケートや次年度以降、実施する予定のワークショップによる住民（多年齢層、および地域外も含む大学生）参加を組み合わせてまちづくりビジョンの策定を行う流れを想定しています。ただし、藤が丘地区においては喫緊の課題と長期的な課題が混在しているため、遂行すべき課題を短・中期的課題と中・長期的課題に整理し、短・中期的課題については、まちづくりビジョンの策定と平行して具体的な施策展開を図ることとしています。また、今後、必要に応じて施設部会以外にも作業部会を設置、専門的な検討を行い、まちづくりビジョンの策定に反映する予定です。</p>
---

※ この様式は公開されます。